

MIE UNIVERSITY FINANCIAL REPORT

三重大学財務報告書

2017

第14事業年度

平成29年4月1日～平成30年3月31日

三重の力を
世界へ



「FINANCIAL REPORT」について

平成16年度からすべての国立大学が国立大学法人となり、三重大学では運営を支えてくださる多くの皆様に対して、より一層の説明責任を果たしていくことが重要と考えております。

このたび、文部科学大臣により承認を受けた平成29事業年度財務諸表をもとに、本学の財務状況をわかりやすくお伝えすることを目的に「FINANCIAL REPORT」を作成いたしました。

この報告書が皆様にとりまして、三重大学の活動をご理解していただく一助となることを願っております。



学 長

駒田 美弘

平成29年度決算の概要

平成29年度は、教育・研究活動及び診療活動に係る費用は前年度より増加したものの、附属病院は手術件数の増加等による診療単価の向上により附属病院収入が増加したことで、当期総損益は約12億円の利益となりました。

第3期中期目標期間の2年度目となった平成29年度は、本学の教育・研究活動を通じた地域貢献をさらに発展させるための取り組みを進め、地域社会から多くの信頼を集めてまいりました。

基盤的な運営費交付金が減額される中、教育・研究活動のための資金の確保に努めるとともに、附属病院においては、地域の医療ニーズに応え高度で先進的な医療を安全に提供することや、大学全体での経費削減などの経営努力を引き続き進めてまいります。

関係各位におかれましては、引き続き本学の教育、研究、診療等の諸活動に御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



総務・財務・基金担当
理事

尾藤 広幸

平成29年度のTOPICS

1. 「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」の充実

本学は、平成28年度より、三重県の現状を知り、今後の三重県を展望しつつ、地方創生のエンジンとなって三重県の新時代を切り開くことのできる人材を育成する「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」をスタートし、平成29年度は、本プログラムに係る授業として新たに5つの授業を開設しました。

三重の歴史と文化	「三重の歴史と文化」および「三重の産業」に精通したゲストスピーカーを招き、三重県の特色について学ぶ講義を実施した。
三重の産業	
PBL型集中講義 地域で活躍するゲストスピーカーによる講義を実施し地域に関する知見を深めるとともに、実際にフィールドに足を運び、グループワークを通じて課題を克服するための方策を提案した。	
食と観光実践	伊勢神宮にまつわる食文化や観光業などについて学んだ。グループワークでは、その地域の観光のあり方などを実地見学やインタビューを通じてまとめ、課題発表を行った。
次世代産業実践	航空宇宙産業のなりたちや産業としての特徴、航空力学の基礎を専門家から学び、飛行機部品を製造する現場を訪問し、ものづくりの魅力を学ぶ授業を実施した。
医療・健康・福祉実践	三重県内の病院を見学することを通じて、地域医療を学ぶ授業を実施した。

三重創生ファンタジスタ資格認定対象授業数	28年度	210	⇒	29年度	222
地域志向科目群から4単位以上取得 (資格取得の要件の一部)した学生数		1,104人	⇒		2,276人 (主な執行内訳)
平成29年度 補助金 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)執行額		3,100万円	⇒	教育経費※	600万円
			⇒	人件費※	2,500万円

※ 7ページの損益計算書参照

2. 教養教育におけるグローバル人材育成の推進

本学の教養教育カリキュラム外国語領域(英語)では、学生が入学時に受験したTOEIC IPテストの結果にもとづく能力別のクラス編成としており、TOEIC IP テストの成績が優秀な学生は、英語特別プログラム(※)に参加することができます。

平成29年度は、本学の英語の授業改善および英語特別プログラムの教育・運営をより強力に推進するため、教養教育機構に「外国語教育推進室」を設置し、その中に英語部会及び英語特別プログラム部会を設置しました。

◆ 三重大学国際交流外国人教員短期招へいプログラム

シェフィールド大学から教員を招へいし、4日間の集中講義を実施
同教員による英語特別プログラム短期海外研修参加者を対象とした、
1泊2日のワークショップを実施

	28年度		29年度
集中講義の参加学生	24名	⇒	32名
ワークショップの参加学生	36名	⇒	49名

※ 英語特別プログラム

教養教育カリキュラム(英語)の成績優秀者向けの特別プログラム。参加する学生は、英語10単位のほか、アクティブ・ラーニング領域2単位、教養統合科目2単位も英語で履修し、仕上げとして3週間イギリスのシェフィールド大学での短期海外研修に参加できる。

◆ 短期海外研修

JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)から奨学金を獲得し、57名の学生がシェフィールド大学において実施する3週間の海外研修に参加した。

平成29年度のTOPICS

3. 卓越型リサーチセンターへの支援による外部資金の獲得

本学では、平成20年度から、分野横断的な最先端研究等を推進し、又は特定分野の独創的研究等を推進すると認められる研究グループを「三重大学リサーチセンター」として認定しており、平成29年度からは新たに重点的に取り組むものを「卓越型リサーチセンター」として認定する制度をスタートしました。

卓越型リサーチセンターの選定方法は学内公募とし、6件が認定されました

- 人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター
- 次世代型電池開発センター
- 特異構造の結晶科学リサーチセンター
- 次世代型VLPワクチン研究開発センター
- コーディネート育種基盤創生リサーチセンター
- 次世代抗がん剤開発・ゼブラフィッシュスクリーニングセンター

認定した卓越型リサーチセンターに対しては、研究スペース及び研究資金（計9,000千円の研究費を配分）の支援を実施し、最先端研究、独創的研究等の推進に向けた重点支援を行いました

卓越型リサーチセンターでの平成29年度外部研究資金獲得状況

科学研究費	51件	1億2,365万円
共同研究費	51件	1億0,095万円
受託研究費	19件	1億5,427万円
補助金	6件	1億7,462万円
寄附金	18件	3,670万円
合計	145件	5億9,020万円

4. 「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択

文部科学省事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」(※)に本学の「地域創生を本気で具現化するための応用展開『深紫外LEDで創生される産業連鎖プロジェクト』」(事業期間：平成29年度～平成33年度)が採択されました。総額約676,000千円の研究資金を獲得

本学の拠点計画のテーマは、三重大学が確立した「深紫外LED」の基板作製などの技術により、飛躍的な製造コスト低減を実現可能とし、その産業振興をLEDメーカーおよび地域アSEMBリーメーカーと連携して進めることにより、地域に関連産業を育成するとともに、深紫外LEDを使った殺菌等の応用技術を農業・水産業へ普及させ、地域創生推進を目指します。

(主な執行内訳)

平成29年度 地域産学官連携科学技術振興事業費補助金
「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」

1億5,000万円

固定資産 ※1 6,760万円

研究経費 ※2 7,590万円

人件費 ※2 650万円

◆共同で研究・製品開発を目指す地域の企業を募集する取組

「連携企業募集説明会2017」 県内2か所で開催
本学と共同で研究・製品開発を目指す地域の企業を募集
計82社、150名の参加

「第1回エコシステムフォーラム」 津市で開催
「水および空気の殺菌」分野における本事業展開の可能性を提示
計59社、120名の参加

これらにより、地域におけるアプリケーション開発連携企業との共同研究契約締結に向けた接点構築を実現

◆量産化に向けた取組

国内LEDメーカーに対して、本研究により開発したテスト基板を提供し、連携企業の評価を受けるプロセスを繰り返し実施

※1 5ページの貸借対照表参照
※2 7ページの損益計算書参照

平成29年度のTOPICS

5.伊勢志摩サテライトの設置

産学官連携活動を推進するために、本学機能強化構想では、平成31年度までに三重県内4地域にサテライト（地域拠点）を設置することとしており、平成28年度に設置した「伊賀サテライト」と「東紀州サテライト」に続き、平成29年度は「伊勢志摩サテライト」を設置するとともに、同サテライトの活動拠点として鳥羽市立海の博物館内に「海女研究センター」を設置しました。

伊賀サテライトの活動

- 忍者に関する教育研究の成果を発信するために設置した国際忍者研究センターの開設記念シンポジウムを開催（約200名参加）
- 産学官連携セミナーin伊賀を開催（130名参加）
- (有)モンバクトルとの共同研究で、忍者の携帯食を参考に「かたやき小焼き」を開発し、三重大学産学連携認定商品として販売を開始。

伊勢志摩サテライト 開設

〔目標〕
歴史ある自然との共生・共存の思想を世界に発信する拠点

〔活動のイメージ〕
食と観光産業による地域創生の研究（歴史文化の交流、海女文化、水産資源の活性化、食品の6次産業化、観光資源の活用など）、地域人材の育成等

東紀州サテライトの活動

- 「奥伊勢ゆずハイボール」の開発（㈱近鉄リテーリングと㈱伊勢萬との共同開発）に企業・自治体間の調整役として貢献
- 英語教育：ICTを活用した英語教材の開発に取り組み、東紀州地区の小学校へ出前授業を実施
英語発音に関するアプリを開発し、平成30年度より東紀州地区の小学校で活用
- ICT教育：海外大学の開発したプログラミング教材を活用し東紀州地区の小学校で出前授業を実施

（主な執行内訳）

平成29年度 運営費交付金 「地域連携機能の抜本的強化」予算 執行額	1億1,077万円	固定資産 ※1	1,400万円
平成29年度 補助金 国立大学法人機能強化促進補助金 執行額	4,017万円	教育・研究経費 ※2	6,030万円
		人件費 ※2	7,660万円

※1 5ページの貸借対照表参照、※2 7ページの損益計算書参照

6. 附属病院における診療科・診療部門の体制整備

◆ 診療科・診療部門の体制整備

形成外科では、平成29年4月に教授の就任及び助教2名の増員を実施するとともに、診察室の移転・増床を実施しました。

リウマチ・膠原病センターでは、平成29年9月に教授が就任し10月から診療を開始するとともに、診療スタッフ2名の増員及び外来診療日の拡充（週1日→週4日）を行いました。

これらの体制整備により、患者数及び稼働額を増やすことができ、高度急性期病院としての運用体制を強化しました。

形成外科受入患者数	2,043名	（昨年度比 1,811名増）
リウマチ・膠原病センター受入患者数	538名	

◆ 効率的かつ安定的な病院経営の取り組み

在院日数の要因分析・稼働改善活動を行い平均在院日数短縮
麻酔医の増員等による手術件数の増加

附属病院 収益	平成28年度	226億円	➔	平成29年度	234億円	※ 8ページの損益計算書参照
						（昨年度比 8億円増）

財務データ 貸借対照表

建物等の償却資産には減価償却累計額が含まれ、表示額は**現在帳簿価額**。

① 建物等

403.9億円

(H29年度)

本学の建物等は、各学部・研究科の建屋以外にも、附属病院や講堂、附属図書館等を有し、平成29年度は附属病院の再開発による駐車場整備工事（上写真）等による資産を取得しています。



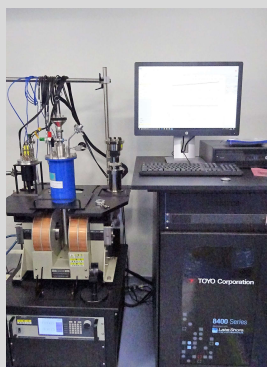
平成28年度と比べると減価償却により帳簿価額は減少しております。

② 機械備品

64.2億円

(H29年度)

本学は教育・研究機器や附属病院での診療機器、練習船「勢水丸」を保有しております。平成29年度は、「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」補助金により、「電気的特性評価システム」などの機器を購入し、教育研究基盤の充実を図っています。また、保有資産の減価償却により平成28年度よりも帳簿価額が減少しております。



③ 建設仮勘定

0.02億円

(H29年度)

建設仮勘定の平成28年度の残高のうち、3.3億円は、附属病院駐車場整備の工事前払金額であり、平成29年度に工事が完了したことにより減少しております。

④ 投資その他の資産


23.3億円

(H29年度)

債券の購入などによる資金運用を行っております。平成29年度は以下の運用を行ったことで、投資その他の資産が増加しております。

政府保証債（40年）	1.0億円
電力債（10年）	1.0億円
長期性預金（20年）	1.0億円
長期性預金（30年）	1.0億円

(百万円)

	H28	H29	増減
資産の部			
固定資産 A	68,268	65,310	△ 2,957
土地	11,976	11,976	0
建物等	41,878	40,391	△ 1,487 ①
機械備品 (船舶含む) 	7,991	6,422	△ 1,568 ②
図書	3,994	4,012	17
美術品・収蔵品	22	22	0
車両運搬具	22	29	6
建設仮勘定	333	2	△ 331 ③
無形固定資産	114	121	6
投資その他の資産	1,933	2,333	400 ④
流動資産 B	11,481	11,874	392
現金・預金	6,163	6,401	237
未収金	4,803	5,084	281
（うち 附属病院収入）	(4,073)	(4,440)	(366)
（うち 受託研究 他）	(729)	(644)	(△ 84)
その他	515	387	△ 128
合計 C(A+B)	79,750	77,184	△ 2,565



PICK UP 平成29年度のTOPICSの該当データ



このマークがある箇所は、2～4ページに記載の平成29年度のTOPICSに該当するものです。「○」のナンバーが各TOPICSの該当ナンバーです。

(百万円)

	H28	H29	増減
負債の部			
固定負債 D	38,497	35,961	△ 2,535
資産見返負債	8,763	8,314	△ 449 ⑤
借入金	27,134	25,485	△ 1,648 ⑥
リース債務	2,243	1,941	△ 301 ⑦
その他	356	219	△ 136
流動負債 E	10,837	10,820	△ 17
運営費交付金債務	4	12	7
寄附金債務	3,348	3,429	81
前受受託研究費等	797	779	△ 18
借入金	2,179	2,049	△ 129
未払金	3,683	3,762	78
その他	823	787	△ 36
負債 F(D+E)	49,334	46,781	△ 2,553
純資産の部			
資本金	17,485	17,485	0
資本剰余金	12,263	10,970	△ 1,293 ⑧
利益剰余金	667	1,947	1,280
(うち目的積立金)	(0)	(209)	(209)
純資産 G	30,415	30,403	△ 12
合計 H(F+G)	79,750	77,184	△ 2,565

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、計は必ずしも一致しない。
以下、特段の記載が無い限り同内容。

⑤ 資産見返負債 83.1億円

(H29年度)

運営費交付金や授業料等の財源は国民や学生等からの負託であり、それらの財源で設備等を取得した場合は、その償却期間中は固定負債として取り扱い、資産見返負債として計上しております。

その後毎年度、減価償却相当額を収益に計上しております。

⑥ 借入金 254.8億円

(H29年度)

H29年度借入額 4.0億円

H29年度返済額 21.7億円

H30年度返済額 20.5億円

固定負債：借入金残高はそのほとんどが附属病院の再開発によるものです。平成29年度は駐車場整備のために借り入れましたが、返済も順調に進んでおります。

⑦ リース債務 19.4億円

(H29年度)

H29年度新規リース 1.4億円

電子計算機システム（総合情報処理センター）

平成29年度に総合情報処理センターの電子計算機システムの更新がありましたが、リース料の支払いにより固定負債：リース債務残高が減少しています。

⑧ 資本剰余金 109.7億円

(H29年度)

施設費や目的積立金で取得した資産は、大学の財産的基礎を形成するものとして、純資産の資本剰余金へ計上されます。本学は、資本剰余金残高約109.7億円のうち、そのほとんどが附属病院以外の各学部校舎等で構成されております。

平成28年度よりも減少しているのは、建物等の減価償却によるものです。

財務データ 損益計算書

各経費には「減価償却費」が含まれています。

⑨ 教育経費 13.2億円

(H29年度)

平成29年度の教育経費は、教育環境整備のための建物修繕費や奨学金・授業料免除経費等により平成28年度よりも増加しております。運営費交付金・授業料収入のほか、補助金や寄附金等の財源を用いて教育活動を行っております。

⑩ 研究経費 14.2億円

(H29年度)

平成29年度の研究経費は、研究活動の遂行に伴う研究用物品の増加により、平成28年度よりも増加しております。運営費交付金収入の他、補助金や寄附金などの外部資金を財源に研究活動を行っております。

⑪ 診療経費 160.1億円

(H29年度)

平成29年度の診療経費は、診療活動に伴う医薬品・医療材料や保守委託業務などの費用のほか、診療設備を維持するための建物設備や医療機器の修繕費がかかっております。手術件数の増加や外来患者数の増加により平成28年度を上回っております。

⑫ 人件費 206.2億円

(H29年度)

平成29年度の人件費は、附属病院におけるメディカルスタッフの増員や常勤化などにより増加しております。診療体制の充実により、附属病院収益の増加を実現しております。

⑬ 臨時損失 3.6億円

(H29年度)

平成28年度に計上した病院取り壊しによる費用(8.3億円)がその年度限りの費用であったため、平成29年度は臨時損失の額が減少しております。

(百万円)

	H28	H29	増減
経常費用 I	42,533	42,842	309
教育経費  TOPICS 1. 5	1,298	1,325	27 ^⑨
研究経費  TOPICS 4. 5	1,409	1,425	16 ^⑩
診療経費	15,843	16,016	172 ^⑪
教育研究支援経費	404	415	10
受託研究費等	1,545	1,571	25
人件費  TOPICS 1. 4 . 5	20,513	20,629	116 ^⑫
一般管理費	1,191	1,138	△ 52
財務費用	326	320	△ 6
経常利益 K(J-I)	855	1,130	275
臨時損失 L	839	368	△ 470 ^⑬
当期総利益 O (J+M+N-I-L)	209	1,280	1,070
合計 P(I+L+O)	43,582	44,492	909

(百万円)

	H28	H29	増減
経常収益 J	43,388	43,973	584
運営費交付金収益	11,778	11,621	△ 157 ⑭
授業料等収益	4,313	4,282	△ 31 ⑮
附属病院収益	22,632	23,442	810 ⑯
TOPICS 6 受託研究等収益	1,524	1,551	27 ⑰
寄附金収益	718	750	31
補助金等収益	742	759	16
施設費収益	36	59	22
資産見返負債戻入	1,039	899	△ 140
雑益	601	607	5
臨時利益 M	171	518	347
積立金 取崩額 N	22	0	△ 22
合計 Q(J+M+N)	43,582	44,492	909

平成29年度の経常収益の主な構成割合は、約26%が運営費交付金収益であり、約10%が授業料等収益、約53%が附属病院収益となっております。

⑭ 運営費交付金収益 116.2億円

(H29年度)

平成29年度の運営費交付金の交付額は、120.1億円であり平成28年度の118.1億円に対し増加しております。運営費交付金のうち固定資産の取得に要した経費は、運営費交付金収益ではなく資産見返負債に計上する会計処理をすることから、平成29年度は平成28年度に比べ固定資産の取得が多く、運営費交付金収益額は減少しております。

⑮ 授業料等収益 42.8億円

(H29年度)

内訳	H28	H29	増減
授業料	36.4億円	36.3億円	△0.1億円
入学料	5.4億円	5.3億円	△0.1億円
検定料	1.3億円	1.2億円	△0.1億円

⑯ 附属病院収益 234.4億円

(H29年度)

入院	H28	H29	増減
診療単価	78,292円	80,886円	+2,594円
手術件数	6,563件	6,924件	+361件
外来	H28	H29	増減
診療単価	18,991円	19,001円	+10円
患者数	314,308人	330,701人	+13,721人

附属病院収益は、手術件数・外来患者数の増加により、大きく伸びております。

⑰ 受託研究等収益 15.5億円

(H29年度)

〈参考〉受託研究等契約相手方別受入額
(治験含む・直接経費)

	H28	H29	増減
国	0.3億円	0.4億円	+0.1億円
地方公共団体	1.9億円	1.7億円	△0.2億円
独立行政法人	4.0億円	4.6億円	+0.6億円
株式会社	6.5億円	5.9億円	△0.6億円
その他間接経費	3.0億円	2.8億円	△0.2億円
合計	15.7億円	15.4億円	△0.3億円

国・独立行政法人からの受入額は増加していますが、民間等からは減少となっております。

今後も積極的に地域の皆様とともに研究を行い、地域貢献に取り組みます。

学生1人あたりの年間コスト

学生1人あたりの年間コスト		財源	
教育研究	563,036円	検定料 入学料 授業料	604,834円
教職員人件費	1,300,549円	その他	223,651円
		自己収入 寄附金	113,502円
施設整備	180,504円	国による コスト負担	1,281,728円
一般管理費	117,672円		
その他	61,954円		
合計 2,223,715 円			



三重大学

病院・附属学校を除く、三重大学の学部等の運営に係る総コストを学生（学士、修士、博士、聴講生等）数 7,418人（平成29年5月1日時点）で除いた学生1人あたりの年間コストは約222万円となります。

財源のうち、学納金（検定料、入学料、授業料）は約60万円（約27%）であり、国から約128万円（約58%）を負担していただいております。

この財務報告書は、平成30年8月31日付けで文部科学大臣に承認された平成29事業年度財務諸表等に基づき作成しております。本学の財務諸表等については、官報及び本学ウェブサイト上の情報公開のページにて御覧いただけます。以下のURLより御覧下さい。（<http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/finance.html>）

三重大学

振興基金



問合せ窓口：三重大学振興基金事務局
TEL 059-231-9005

三重大学振興基金は、皆様からの『ご寄附』を基金としてお預かりし、地域からの期待に応える大学に成長・発展を遂げるために必要な、学生（留学生を含む。）の教育活動に対する支援事業や教育研究の充実及び教育研究環境の整備等に必要の支援事業に活用するものです。

このような趣旨にご理解とご賛同を賜り、格別のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、インターネットによるご寄附も受け付けております。（<http://www.mie-u.ac.jp/foundation/post-3.html>）

<全学プロジェクト事業>

三重大学振興基金事業	三重大学における奨学援助(三重大学修学支援事業を除く)、国際交流及び地域貢献等の一層の進展を図り、もって教育・学術研究の振興に資することを目的とする事業として活用させていただきます。
	(活用事例) 奨学金及び災害時の学資援助事業、修学環境整備事業、その他本学の使命達成に必要な事業
三重大学修学支援事業	三重大学に在籍する経済的理由により修学困難な学生等を対象とする支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 授業料減免事業、奨学金事業、留学生支援事業
地域活性化活動支援事業	三重大学の所有している教育研究成果を基に、地域の自治体や地域圏企業・団体等と連携し、地域発のイノベーションを誘発することを目的とする地域貢献活動の支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 三重大学地域貢献活動支援費、地域拠点サテライトでの教育研究活動支援費

<学部・研究科(大学院)等プロジェクト事業>

学生と市民の豊かな教養を育むための支援事業	教養教育院の教育活動、受講する学生支援、地域貢献活動の支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 教養教育の授業方法・教材等の開発、短期海外研修(教養教育特別プログラム)等に参加する学生の支援、施設整備等、地域住民向け教養公開講座等の実施。
人文学部・人文社会科学研究科学生支援事業	人文学部・人文社会科学研究科に在籍する学生、及び来日した留学生への支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 学生の海外研修、留学の支援、三重の文化・社会を学ぶ留学生の学習の支援
教育学部・教育学研究科教育研究事業	教育学部・教育学研究科に在籍する学生、国際交流事業、地域貢献事業、教育研究活動の支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 学生への修学支援、海外研修等の国際交流実施に係る経費支援、東紀州教育学会での実習支援、地域貢献活動に係る経費支援等
教職大学院奨学金事業	教職大学院に在籍する学生への支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 授業料、入学料の全部又は一部を免除する事業
医学系研究科・医学部教育研究事業	医学系研究科・医学部の国際交流、研究活動、在籍する学生への支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 国際交流事業支援(協定校との相互交流、交換留学、その他国際交流事業実施に係る経費支援)、学生旅費支援(早期海外体験実習、海外臨床実習、地域医療機関での臨床実習、保健医療実習、学生臨地実習、CNSコース実習等の学生旅費支援)、研究活動支援(若手研究者海外研修支援、オープンラボ等研究スペースの整備)
地域活性化に向けた工学系人材育成ネットワーク構築事業	工学部・工学研究科が実施する地域への工学系人材供給のための事業及び在籍する学生への支援・地域ニーズの把握を含めた工学研究科就職担当教員と自治体産業振興部門との情報共有会議の事業支援に活用させていただきます。
	(活用事例) キャリア教育の導入事業、三重県内企業見学・海外インターンシップへ参加する学生への支援、地域企業海外事業所訪問を含む地域指向グローバル人材向け研修に参加する学生への支援、これらの取組を通して、地域志向学生の抽出、就職意識の涵養を図ることで、地域志向学生への就職に関する情報提供、マッチングの深化を図ります。
生物資源学部・生物資源学研究科教育研究事業	生物資源学研究科・生物資源学部の施設・設備整備及び在籍する学生への支援に活用させていただきます。
	(活用事例) 教育環境、建物・設備の整備、学生への奨学金・就学支援(成績優秀者奨励支援、地域に関する学生ボランティア支援)
地域イノベーション学研究科教育研究支援事業	地域イノベーション学研究科に在籍する学生への奨学金、学会発表等の旅費及び国際交流活動への支援並びに本研究科の修学環境整備等に活用させていただきます。

三重の力を
世界へ

MIE UNIVERSITY FINANCIAL REPORT

三重大学財務報告書

2017

第14事業年度

平成29年4月1日～平成30年3月31日